

委託事業実施内容報告書
2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名： 特定非営利活動法人 可児市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	地域多文化共生人材育成事業
事業の目的	在住外国人が、地域社会の一員として生活していけるように支援を構築する。 成人・青年・子ども・保護者など、それぞれにもつ問題や困難さを解決するために、多様化する日本語教育人材の資質・能力を活動分野ごとに養成・研修を実施する。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	当協会では、恒常的にほぼ毎週、日本語教室を実施できているが、指導者・支援者不足に悩んでいる。 指導者・支援者を確保できたとしても、高齢化など、ある程度の経験や強固なビリーフを持っている人たちとの協働や日本語教育人材に求められる資質・能力について整理されていない現状がある。そのため、結局、同じ人材が他教室を兼務することになっている。 また、近隣では、現在、日本語教室を運営している地域が少ないため、当協会に学習者が集中している。当協会の日本語教室の学習者のうち、技能実習生が20%を占め、日系人及びその家族、日本人の配偶者及びその家族が72%を占めている。そして、可児市の外国人登録者数(含む来日者)は、毎月約100人ずつ増加しており、就学前から小中学生、学齢超過の子どもも増加し続けている。最近では、日本で生まれ育った青年が親となる時代になり、日本語力には問題ないものの、子どもの教育や就労の安定を考えさせる機会を作った方がいいのではないかという実情がある。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	【日本語教育の実施】 2018年度まで、文化庁委託「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の地域日本語教育実践プログラム(B)で、成人の日本語教室を①初級・中上級者の混在クラス と②中上級者クラス に分けて実施していたが、最近の学習者の参加状況からみても、今後、初級者レベルが増加する見込みとして、従来の②中上級者クラスを閉講し、2019年度から本事業で、土曜日の夜教室に初級者(ゼロレベル)クラスを新設した。日本語教室は、土曜日の夜(19:00～20:30 1.5h)と、日曜日の昼(13:30～15:30 2h)に実施した。主に、日常生活に必要な会話と文字の学習。多文化演劇ユニットMICH(再委託)により、災害時の日本語を学習し、学習者も支援者も協働で理解した。また、就学前から小中学生の子どもが増えている中、子育て中の保護者を中心に子育ての日本語教室を実施した。 【日本語教育人材の養成・研修の実施】 就学前から小中学生、学齢超過の教室に子どもが増加し続けている中、日本語教育に求められる資質・能力は多様化している。主として、外国人児童生徒の日本語教育人材として、既に日本語教育に関わっている指導者に向けて、日本語指導に必要な知識を身に付けることと、教育能力の向上に導くために実施した。 2時間 8回、3時間 3回、5時間 1回 【学習教材の作成】 従来から取り組んでいる日本語教室でのポートフォリオを引き続き実施し、その中のCan-doリストは、教室内で教材としても活用しているため、今年度、土曜日クラスで使用できるCan-doリストを見直しを図りながら作成し、冊子化した。 ＜土曜日日本語教室＞ ひらがなクラス 1.5h×4回＝6h 基礎クラス 1.5h×8回＝12h Ⅰクラス(初級) 1.5h×15回＝22.5h Ⅱクラス(中級以上) 1.5h×15回＝22.5h
事業の実施期間	令和 元年 5月～令和 2年 3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	米勢 治子	東海日本語ネットワーク 副代表
2	小島 祥美	愛知淑徳大学 准教授
3	松井 かおり	朝日大学 准教授
4	春成 浩治	岐阜県国際交流センター 局長補佐
5	加藤 エジソン	可児市役所人づくり課 主査
6	山田 久子	多文化演劇ユニットMICHl 代表
7	各務 眞弓	可児市国際交流協会 事務局長
8	近藤 利恵	可児市国際交流協会 事務局次長
9	菰田 さよ	可児市国際交流協会 日本語講師



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和元年6月17日(金) 13:00~15:30	2.5時間	可児市多文化 共生センター フレビア	米勢治子、松井かおり 加藤エジソン、山田久子 各務眞弓、近藤利恵 菰田さよ	1. メンバー紹介 2. 今年度の取組:指導者不足を改善するために、従来のシステムを見直す必要があるのではないか。他団体のシステムを参考にしてみてもどうか。
2	令和2年1月28日(火) 13:30~16:00	2.5時間	可児市多文化 共生センター フレビア	米勢治子、春成浩治 加藤エジソン、山田久子 各務眞弓、近藤利恵 菰田さよ	1. 取組の進捗状況:教材作成について、内容を見直し、改善策を来年度につなげてみてどうか。 2. 来年度について:可児市の中でも特に外国人が多く住んでいる地域に日本語教室を立ち上げるために、本取組との関わりの中で、どのように進めたらいいか。

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	日本語教室では、地域で活動している団体に関わっていただいた。ミールの会(可児市食改協OB有志の皆さま)、中部電力の職員、可児市防災の会など、地域の日本人も外国人との関わり方を考えてもらう機会となった。多文化演劇ユニットMICHlの取り組みの中でも、可児市防災の会や自治会、地域住民との連携・協力を図った。 日本語教育人材の研修においては、学校や市教育委員会などと連携をとり、開催の周知や受講を喚起するなど、人材育成に努めていただいた。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	中核メンバーは全員、運営委員会の委員であることと、日本語教育を効果的に行う上で学習者と支援者、前述の地域の協力団体とのマッチングなど、教室や業務運営を遂行できるコーディネートを行った。
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称：Ⅰ土曜日日本語教室 Ⅱ日曜日日本語教室 Ⅲわかる！災害時の日本語 Ⅳ子育ての日本語】			
目的・目標	【Ⅰ土曜日 Ⅱ日曜日】 ①教室で学習した日本語が、学習者の日々の生活に活かすこと ②学習者が日本語をツールとして、安心・安全に暮らすことができること ③教室と地域のつながりが増える、広がること また、そのための地域づくりに教室として貢献すること 【Ⅲ防災】 参加者が防災意識を高め、緊急時に必要な情報伝達と日本語を習得する 【Ⅳ子育て】 日本での子育てに役立つ情報を発信し、保護者に日々の生活の中で活用してもらう 地域住民同士の交流や情報交換の機会をつくる		
内容の詳細	【Ⅰ土曜日】 19:00～20:30 (1.5h) 読む・書く・聞く・話すに対応したクラス。自分のレベルや学習者のニーズに合わせて学習できるような体制を作った。また、日本語教室の学習者が増え、その中でも特にブラジルの、家族単位で、日本語ゼロで来日する学習者が増えてきたため、初級者向けの会話教室は以前から設置していたが、さらに初期(ゼロレベル)のクラスが必要になってきた。土曜日クラスの中に基礎クラス(ゼロレベル向け)を新設し、生活するのに必要最低限の日本語が身に付けられるような学習を実施した。 ＜クラス＞ ① ひらがな・カタカナクラス ② 基礎クラス(ゼロレベル学習者向け) ③ 初級以上の会話クラス(レベル別にⅠ:レベル低 Ⅱ:レベル中以上の2グループに分ける) ④ 漢字クラス(③のⅡグループ以上の学習者が主に学ぶ) 【Ⅱ日曜日】 13:30～15:30 (2h) 日常生活に必要な日本語を学んだ、会話・対話中心のクラス。教室内では、場面練習を取り入れ、身体で感じながら日本語を学ぶ活動も織り込んだ。地域の日本人との交流として、ミールの会(可児市食改協OB有志の皆さま)、可児市防災の会とも一緒に活動させていただくことができた。また中部電力の方から停電時のお話をいただいたり、地元の高校生と防災時のやさしい日本語を考える機会もあった。 ＜教室の主な流れ＞ ① 本日のテーマ導入 → ② グループに分かれて会話練習 → ③ 学習したことの応用練習(場面練習等)、振り返り 【Ⅲ防災】 災害時には日常生活では使わない言葉もたくさん使用されるため、言葉に不安をおぼえる外国住民も多いと考えられるため、本取組では、防災の知識だけでなく、身体も使い体験しながら言葉と知識を習得できる防災ワークショップ・防災まちあるきなどの体験型ワークショップを開催した。また、2018年度に地域で実施された避難所開設訓練に参加したが、防災初心者外国人住民には理解が難しい内容となっていたため、今年度は主催者にやさしい日本語を使用していただくなどの配慮をお願いし、避難訓練直後にはわからなかった言葉を確認する時間を設けた。下記体験型ワークショップを多文化演劇ユニットMICHIEが中心となり、可児市防災の会や自治会や地域住民、その他団体と協力しながら企画運営した。 11月24日(日)に関市(田原ふれあいセンター)にて防災ワークショップを企画したが参加者が0人だったため、そのまま支援者と見学にきていた関市の防災担当者を交えて、今回の反省と次回開催する際の課題などを話し合った。 ①防災ワークショップ(可児市、関市) 4回(うち1回は参加者0名のため対象外) ②防災まちあるき 1回 ③避難訓練ツアー 1回 【Ⅳ子育ての日本語】 日本で子どもを育てる保護者が、子育てに役立つ日本語を学びながら、子どもとともに日本の学校や文化、生活等について学んだ。 講座を通して、参加者が子育てに役立つ日本語を学習するとともに、学習した内容を日々の生活の中で実践できるように支援した。 ＜1＞親子で絵本をつくろう ＜2＞入学準備ガイダンス		
実施期間	土曜日:令和元年7月6日～令和元年12月21日 日曜日:令和元年7月7日～令和元年12月22日 子育て:令和元年11月17日 と 令和2年1月25日 防災:令和元年6月22日～令和元年11月24日	授業時間・コマ数	土曜日: 1回 1.5時間 × 15回 = 22.5時間 日曜日: 1回 2時間 × 14回 = 28時間 子育て: 1回 2時間 × 2回 = 4時間 防災: ①(2時間×2回)+(1時間×1回)+(0時間×1回) = 5時間 ② 2時間 × 1回 = 2時間 ③ 3.5時間 × 1回 = 3.5時間
対象者	日本語を学習したい外国人及び支援者 子どもを持つ保護者とその子ども	参加者	土曜日: 総数 414人 + 指導者 87人 (受講者 161人, 指導者・支援者等 9人) 日曜日: 総数 379人 + 指導者 89人 (受講者 139人, 指導者・支援者等 12人) 子育て: ①総数 44人(受講者 39人, 指導者・支援者等 5人) ②総数 51人(受講者 46人, 指導者・支援者等 5人) 防災: 総数 115人 (受講者 100人, 指導者・支援者等 15人)

カリキュラム案活用		・「生活上の行為の事例」&「日本語能力評価」:ポートフォリオ内CanDoリストの項目に参考にした。 ・「教材例集」:実際の教室のテーマに参考にした。 ・「ガイドブック」:コーディネーターがコースデザインのために参考にした。 ・(05)災害に備え、対応する(地震)(火事)の活動シート、ことば表現シートを参考にプログラムを再検討した。								
使用した教材・リソース										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人) 【土曜日】	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
	8	0	63	22	0	0	11	0	46	4
	アゼルバイジャン(1名)、インド(1名)、カナダ(1名)、パキスタン(4名)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人) 【日曜日】	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
	11	1	41	34	1	0	8	0	37	3
	インド(1名)、カナダ(1名)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人) 【子育て】	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
			38						44	
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人) 【防災】	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
	9		26	23			10		32	
日本語教育の実施内容【土曜日】										
1	令和元年7月6日(土) 19:00〜20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	45	文字・語彙・会話	文字:ひらがな あ〜そ 基礎:数字と時間 会話Ⅰ・Ⅱ:買い物をする 漢字:家の中のもの		内田貴子 各務清香 田牧恵子 馬淵愛 大野伸次	菰田さよ・登田アンナ	
2	令和元年7月20日(土) 19:00〜20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	34	文字・語彙・会話	文字:ひらがな た〜ほ 基礎:日にち 会話Ⅱ:予約する 漢字:お知らせ1(学校・回覧板)		菰田さよ 佐分巧尚 田牧恵子 大野伸次	登田アンナ	
3	令和元年8月3日(土) 19:00〜20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	21	文字・語彙・会話	文字:ひらがな ま〜ん 基礎:どこ・なに 会話Ⅰ・Ⅱ:友達を誘う 漢字:お知らせ2(新聞・天気予報)		菰田さよ 内田貴子 田牧恵子 馬淵愛 大野伸次	登田アンナ	
4	令和元年8月17日(土) 19:00〜20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	27	文字・語彙・会話	文字:ひらがな復習 基礎:いる・いない 会話Ⅰ・Ⅱ:家族 漢字:家の外1(ごみ)		菰田さよ 内田貴子 各務清香 田牧恵子 徳竹礼圭	登田アンナ	
5	令和元年8月24日(土) 19:00〜20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	32	文字・語彙・会話	文字:カタカナ ア〜ソ 基礎:できる・できない/好き・きらい 会話Ⅰ:休みの連絡をする 漢字:家の外2(駐車場)		菰田さよ 各務清香 馬淵愛 徳竹礼圭	-	
6	令和元年9月7日(土) 19:00〜20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	46	文字・語彙・会話	文字:カタカナ タ〜ホ 基礎:ある・ない/いる・いない 会話Ⅰ・Ⅱ:レストランで注文する 漢字:家の外3(交通)		佐分巧尚 内田貴子 田牧恵子 馬淵愛 大野伸次	菰田さよ・登田アンナ	
7	令和元年9月28日(土) 19:00〜20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	41	文字・語彙・会話	文字:カタカナ マ〜ン 基礎:形容詞 会話Ⅱ:料理 漢字:家の外4(駅・電車)		各務清香 田牧恵子 馬淵愛 徳竹礼圭	菰田さよ・登田アンナ	
8	令和元年10月5日(土) 19:00〜20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	32	文字・語彙・会話	文字:カタカナ 復習 基礎:基本的な動詞 会話Ⅰ・Ⅱ:ほしいものを言う 漢字:家の外5(外出先で)		佐分巧尚 内田貴子 田牧恵子 大野伸次	菰田さよ・登田アンナ・馬淵愛	
9	令和元年10月19日(土) 19:00〜20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	24	文字・語彙・会話	文字:ひらがな あ〜そ 基礎:数字と時間 会話Ⅱ:経験を話す 漢字:家の外6(スーパー)		各務清香 田牧恵子 馬淵愛 大野伸次	菰田さよ	
10	令和元年10月26日(土) 19:00〜20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	24	文字・語彙・会話	文字:ひらがな た〜ほ 基礎:日にち 会話Ⅰ・Ⅱ:結婚式 漢字:家の外7(病院)		佐分巧尚 内田貴子 馬淵愛 徳竹礼圭	菰田さよ	
11	令和元年11月9日(土) 19:00〜20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	26	文字・語彙・会話	文字:ひらがな ま〜ん 基礎:どこ・なに 会話Ⅰ・Ⅱ:病院 漢字:家の外8(郵便物)		内田貴子 各務清香 田牧恵子 馬淵愛 徳竹礼圭	菰田さよ・登田アンナ	
12	令和元年11月23日(土) 19:00〜20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	21	文字・語彙・会話	文字:ひらがな復習 基礎:いる・いない 会話Ⅰ・Ⅱ:薬の飲み方 漢字:家の外9(仕事を探す)		菰田さよ 内田貴子 各務清香 馬淵愛 大野伸次	登田アンナ	

13	令和元年11月30日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	13	文字・語彙・会話	基礎①②:できる・できない/すき・きらい 会話Ⅰ・Ⅱ:災害の時 漢字:家の外10(引越し)	菰田さよ 佐分巧尚 内田貴子 田牧恵子 徳竹礼圭	登田アンナ
14	令和元年12月14日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	16	文字・語彙・会話	文字:ひらがな タ～ホ 基礎:ある・ない/いる・いない 会話Ⅱ:好きな場所 漢字:防災	内田貴子 各務清香 馬淵愛 徳竹礼圭	菰田さよ
15	令和元年12月21日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生 センター フレビア	12	文字・語彙・会話	文字:ひらがな マ～ン 会話Ⅰ・Ⅱ:自己紹介 漢字:家の中のもの	佐分巧尚 内田貴子 田牧恵子 大野伸次	菰田さよ
日本語教育の実施内容【日曜日】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年7月7日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	19	防災	防災ワークショップ	菰田さよ ＜MICH＞ 山田久子 住吉エリオ 住吉ユウゾウ 中美保子 瀬瀬浩美	玉置啓二・伊藤章子
2	令和元年7月21日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	32	料理・会話	まちがいさがし	菰田さよ	石川英明・神谷明子 玉置啓二・岸野一樹・山田久子 細谷高史
3	令和元年8月4日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	24	会話	防災のやさしい日本語 日本語教室のテーマを考えよう	菰田さよ	石川英明・岸野一樹
4	令和元年8月18日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	23	会話	停電が起きたとき(中部電力) 夏の思い出	菰田さよ	石川英明・神谷明子・玉置啓二 伊藤章子・小沢陽三・細谷高史
5	令和元年8月25日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	28	会話	趣味	菰田さよ	石川英明・神谷明子・伊藤章子 山田久子
6	令和元年9月8日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	38	料理・会話	フィリピン・インドネシア料理	菰田さよ	神谷明子・玉置啓二・伊藤章子 古沢光子・岸野一樹・山田久子
7	令和元年9月29日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	35	会話	周辺地図を作ろう	菰田さよ	石川英明・玉置啓二・伊藤章子 古沢光子・岸野一樹・山田久子 細谷高史
8	令和元年10月6日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	23	会話	5年後の私へ	菰田さよ	石川英明・玉置啓二・伊藤章子 中島薫・山田久子・小沢陽三
9	令和元年10月20日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	33	会話	不思議・おもしろい日本語	菰田さよ	石川英明・神谷明子・伊藤章子 古沢光子・岸野一樹
10	令和元年10月27日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	38	防災	防災まちあるき	菰田さよ ＜MICH＞ 山田久子 瀬瀬浩美	玉置啓二・伊藤章子・古沢光子 岸野一樹
11	令和元年11月10日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	22	会話	みんなの質問に答えよう	菰田さよ	古沢光子・小沢陽三
12	令和元年12月1日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	13	料理・会話	料理	菰田さよ 〔講師〕 南谷弘子	石川英明・神谷明子・木原幸子 柴田郁子・西尾範子
13	令和元年12月15日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	18	会話	今年1番のNEWS	菰田さよ	石川英明・神谷明子・玉置啓二 伊藤章子・古沢光子・岸野一樹
14	令和元年12月22日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	33	会話	お正月	菰田さよ	石川英明・玉置啓二・伊藤章子 古沢光子・岸野一樹・山田久子

日本語教育の実施内容【子育て】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年11月17日 (日) 14:00～16:00	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	39	親子で絵本をつくろう	絵本づくりを通して、子どもとの日常の中で役立つ日本語を学びながら、子どもとともに日本の文化や生活等について学ぶ。	安田理英	系数明日香 フェナード・コルワーゲ・マヒーシャ・プ ラシャーニ 戸塚真希 渡辺幸子
2	令和2年1月25日(土) 15:00～17:00	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	46	入学準備ガイダンス	子どもとともに、①日本の学校の仕組みや生活、②入学前の準備、③入学式の服装等について、日本語で学ぶ。	秋山千穂	系数明日香 戸塚真希 加納政子 林三千代
日本語教育の実施内容【防災】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年6月22日(土) 11:30～12:30	1	可児市 多文化共生 センター フレビア	8	防災ワークショップ	・大雨の時の危険について ・地震の時の家具転倒防止について	山田久子 住吉エリオ	中美保子 住吉ユウゾウ 瀬瀬浩美 長谷川侑紀
2	令和元年7月7日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	19	防災ワークショップ	地震の際の自助について(初期動作や非常持ち出し袋など)	山田久子 住吉エリオ	中美保子 住吉ユウゾウ 瀬瀬浩美
3	令和元年8月27日(火) 10:00～12:00	2	ザイオン ラーニング センター教室	17	防災ワークショップ	地震について(絵本にて地震のシュミレーション、初期動作の確認)	山田久子	—
4	令和元年9月1日(日) 8:30～12:00	3.5	下恵土 地区センター	18	避難訓練ツアー	下恵土自治会・地区センター主催の避難訓練に参加し、終了後訓練で出てきた言葉など確認した	山田久子 住吉エリオ	中美保子 住吉ユウゾウ
5	令和元年10月27日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	38	防災まちあるき	災害時の安全・危険を確認後、街の中の安全・危険をさがし発表した	山田久子 三宅幹雄 (防災士)	瀬瀬浩美 渡辺隆(防災士) 平井良太(防災士) 臼井尹保(防災士) 渡辺洋(防災士) 土田祥貴(防災士)
6	令和元年11月24日(日) 14:00～16:00	2	田原 ふれあい センター	0	防災ワークショップ	地震の際の自助について(初期動作や非常持ち出し袋など)	参加者0名の 為、対象外	参加者0名の為、対象外

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)【Ⅰ土曜日】

○取組事例①

【第1回 令和元年7月6日】
初日の様子。新規の学習者(特に家族単位で来日し日本語がほとんどゼロのブラジル人)が多く、受付も混乱していた(写真左)。特に、日本語ゼロレベルの人を対象にした「基礎クラス」に多くの学習者が集まった。人数が多すぎて、このような教室形式の座り方にならざるを得ず、1人1人の発話する時間が少なくなってしまった。 この日、基礎クラスのテーマは「数字と時間」で、毎日の生活のルーティーン(時間)や、買い物(値段)など、身近な例を使いながら学習することができた。



○取組事例②

【第15回 令和元年12月21日】

漢字クラス(写真左)では、まず自分の住所が言えて、正しく書けるように学習した。生活の中で住所を言ったり書いたりする機会は多くあるため、学習者にとっては必要であったように感じた。

会話クラスⅠ(写真右)では、いつもの簡単な自己紹介(名前・年齢・国籍等)に加え、趣味や特技、学歴・職歴などとも言えるように練習した。



(1)特徴的な活動風景(2～3回分)【Ⅱ 日曜日】

○取組事例①

【第6回 令和元年9月8日】

テーマ:「フィリピン・ブラジル料理」

継続して通っている学習者2名(各国1名)に、先生になってもらい、フィリピンのスイーツ「トルタ」と、インドネシアの料理「バックワン」を作った。

事前に2名と打ち合わせ、料理の作り方や、どんな時に食べる料理なのかを準備し、教室で紹介した。

当日、学習者数に対して会場が狭く、人数も多かったが、学習者同士での交流が活発であった。子育て支援プラザmanoという公民館のような日本人も多く利用する、駅前の建物内にあるキッチンスタジオを利用し、普段関わっているサポーター以外の日本人の参加も期待し、「誰でも参加歓迎」と呼びかけたが、学習者の引率で来た1名だけであった。入口の看板を見て、気になっている人も多くいたため、今後は事前の広報を広くし、当日の募集も学習者に手伝ってもらい、料理を媒介とした地域交流の場としたい。



○取組事例②

【第7回 令和元年9月29日】

テーマ:「周辺地図を作ろう」

①フレビアの中 ②フレビアの周り ③駅の周り の3つのグループに分け、そこにある建物、どんな人がいたかを調べ、最後に紙にまとめて発表した。フレビアの近くのグループでは歩いている人に話しかけたり、駅の近くの美味しい食べ物屋さんの情報を知り、少し可児の情報も学ぶことができたように思った。

調べて見た建物やものの名前を日本語で習得することはもちろんだが、道(交差点や突き当りなど)の名前や、案内(右に曲がるなど)の日本語も併せて学び、発表に活かすことができた。



(1)特徴的な活動風景(2～3回分)【Ⅲ防災】

○取組事例①

【第4回 令和元年9月1日】

- ・日本語教室の実施場所である多文化共生センターフレビアがある地域「下恵土」地区で行われる下恵土自治会・下恵土地区センター主催の避難訓練に参加した。(災害時には下恵土地区センターが地域の避難所となる)
- ・避難者カードを記入した。世帯ごとに書くことなど説明をうけた後、一人ずつカードを提出した。
- ・避難訓練は、①消防署員による消火器訓練②南海トラフ地震の予想震度や家屋の倒壊予想の紹介、ライフラインの対応についても説明、③地震の際の家具転倒について、自分の部屋の間取りを書いて確認などが行われた。
- ・避難訓練終了後、同地区センター内の別室に移動し、避難訓練で見聞きした内容を参加者から聞き取りながら、もう一度用語の確認をして復習し、内容の理解を深めた。



○取組事例②

【第5回 令和元年10月27日】

- ・10月12日に上陸した台風19号にふれ、洪水の被害の大きさを確認し、大雨の際に危険となる場所を日本語とともに確認した。そして、地震の際は揺れることで建物や物が倒れて危険となることを確認した。さらに、安全な場所はどこな場所なのか考えた。
- ・学習者 7人くらい・防災士 1人・日本語教室サポーター 1人のグループを6つ作り、グループ毎に歩いて20分程度の教室周辺のルートを歩いて回り、危険・安全な場所を探し写真を撮ってもらった。ルートには、大雨の際危険な場所となる「アンダーパス」を入れ、自分の目で見て、その場で防災士から話を聞くことが出来るようにした。危険・安全な場所を探すときには防災士がアドバイザーとなることを事前に伝え、その際に使う日本語も確認してからまちあるきに出掛けた。
- ・まちあるき後には、危険・安全な場所を防災士や日本語教室サポーターとともに一人ひとり文章にした。最後に、グループの中から1つ選び、グループ毎に発表をした。



(1)特徴的な活動風景(2～3回分)【Ⅳ子育て】

○取組事例①

【第1回 令和元年11月17日】

参加者が絵本づくりを通して、子どもとの日常の中で役立つ日本語を学びながら、子どもとともに日本の文化や生活等について学んだ。また、手遊びや絵本読み聞かせを取り入れ、子どもとともに参加できる活動にすることで、普段なかなか一緒に時間を過ごすことが出来ない親子がともに楽しめる時間と空間を提供できるよう工夫した。さらに、会場内に読書スペース(日本語、ポルトガル語、英語、タガログ語)を設置するなど、保護者が子どもと一緒に本に触れることの大切さを伝える場としても活用し、家に本がない家庭のために図書館の利用についても案内をした。



○取組事例②

【第2回 令和2年1月25日】

可児市立の小学校主幹教諭を講師として招き、①入学後の生活(分団での登校、時間割、給食、掃除など)について、②入学に向けた準備(購入する学用品、生活を整えること、練習しておいてほしいこと(箸の使い方、あいさつなど)、子どもの心の準備)、③学校とのやりとりについて(休むときの連絡の仕方、困ったときには誰にどのように相談すればよいか、子どもの勉強面、生活面、精神面でのサポート、学校からの連絡(連絡帳や通信)を確認することなど)について講話をいただいた。

講座には親子での参加を促し、保護者と子ども双方が小学校入学に向けて心の準備をするための機会とした。また、学用品や洋服等についてはできるだけ実物を用意し、参加者に具体的なイメージを持ってもらえるよう工夫した。



(2) 目標の達成状況・成果

【Ⅰ 土曜日】

どのクラスも生活の中で身近なテーマを扱い、テーマにまつわる語彙や文字、会話を習得した。クラスが5つに分かれており(ひらがな・カタカナ、基礎、会話Ⅰ・Ⅱ、漢字)学習者が自分の日本語レベルに応じて選択して学習できたことが、好評だったようだ。家族単位で来日する日本語ゼロのブラジルの学習者が増え、基礎クラスが膨れ上がった。教室全体に占める基礎クラスの人数が多くなってしまい(基礎クラス指導者1人に対して学習者20人など)、会話レッスンであるのに、教室形式になってしまうことで悩むこともあった。出席者が少ない時は、日本語学習期間が短い学習者でも積極的に発話することができ、継続的に基礎クラスで学習した学習者は、クラスレベルを着実に上げていき、教室での学習歴と、学習者の自信とで、新しいクラスに挑戦していく姿を見ることができた。

【Ⅱ 日曜日】

ほとんど毎週学ぶ学習者について、夏前に初めて来た時は、ほとんど日本語が話せなかったが、今は表情も明るくなり、会社の人ともコミュニケーションがスムーズにできるようになったという話を本人から聞くことができた。日本語教室で、学習者同士の繋がりができたことも、目標達成の一つの内容であった。

ブラジルやフィリピンなどの日系人は、家族も日本にいたので学校や家族のイベントで継続して学ぶことは難しそうに思えるが、それでも家族や夫婦で学びに来ることで少しずつ日本語や日本の文化・習慣も理解し、日本語がより身近になることで、それぞれの生活の中で、それぞれが目標を持って生活できるようになっているのではないかと、日頃の学習者の声から感じた。また、技能実習生も能力試験対策にこだわるのではなく、生活するために、日本語でのコミュニケーション力を付けることが、学習者にとって優先的であると感じている学習者は継続率が高いように感じた。

【Ⅲ 防災】

・防災意識を高めることを目標に、多文化共生センターフレビアの日本語教室(第2回、第5回)だけでなくフィリピン保育所やブラジルの子どもたち向けにも防災ワークショップを行うことが出来た。避難訓練ツアーには、日本語教室の学習者が多数参加をしてくれたことから防災への興味や意識の高まりを感じることができた。

・ワークショップ毎に少しづつテーマを変えて、学習者が飽きない工夫をしながら、幅広い情報提供を行った。

・関市で防災ワークショップの開催を企画し参加者への呼びかけも積極的に行ったが、当日会場に参加者を集めることができず開催に至らなかった。

・アンケートでは、①避難訓練への参加の有無、②初めて聞いた防災用語、③災害時どこに避難するか、④ワークショップの感想を確認した。

①では、半分以上の人が参加したことがあると回答し、フレビアの訓練に参加したことがあると回答した人もいた。

②では、「防災」「避難所」が一番多く、ついで「避難」「避難訓練」「防災無線」「地震」「危険」「安全」「にげる」「あぶない」「その他(非常食)(ガラス)」という順番でした。「安全」「あぶない」は職場で使用している場合もあると考えられるが、避難などの防災用語は認知度が低い結果となった。

③では、ほとんどの人が「避難所」としていた。

④には、「今日は災害について多くのことを学びました」「私たちのような外人にとってとても良い気づきがありました」「非常に重要なテーマでした。楽しい方法でとてもわかりやすかったです。」などの意見があった。

・以上のことから概ね目標は達成できたと考えられる。

【Ⅳ 子育て】

<第1回>日本語がほとんどわからない参加者もいたが、講師の説明を聞きながら熱心にメモを取ったり、ページに文字を書き入れたりする様子が見られた。日々仕事で子どもとの時間を十分にとれない保護者に対し、子どもと一緒に参加し、親子で楽しむことのできる場と時間を提供することができた。

<第2回>学校への持ち物や入学式の服装等、実物を見せながら説明することで、内容への理解が深まり、学校に入った後の生活をイメージしてもらいやすくなった。日本の学校の仕組みや生活等について理解が深まったとの感想も多かった。また、保護者の関心度が高く、子育て世代にとってニーズのあるテーマであることが確認できた。

2回の講座を通じて、普段顔を合わせる事が少ない子どもの保護者同士の交流もうまれ、ネットワークづくりや情報交換のための機会にもなった。

(3) 今後の改善点について

【Ⅰ 土曜日】

学習者の”勉強した”という満足感や日本語習熟度と、それが地域で”活かしているのか”という矛盾点を改善する必要があると感じた。そのために、”地域で使える日本語”を学べるために、内容や教室の運営方法を再検討しなければいけないと感じた。

また、指導者不足である。関わった指導者は、420時間日本語教師養成講座を修了もしくは、教員の経験がある人ばかりであり、教室内の雰囲気”学校みたい”な雰囲気になってしまっている。指導経験がないボランティアにとっては、関わりにくい雰囲気であるため、どんな方でも関わられるような働きかけ、体制を作らなければならない。そして、今関わっている指導者含め、それぞれが”学習者にこの教室の、この回を通してどうなってほしいのか”を今一度考え、授業で取り扱うテーマ・内容を一人一人が考える研修会を実施したいと考えている。

【Ⅱ 日曜日】

今年度の取り組みの中で、目標である「③教室と地域のつながりが増える、広がること、また、そのための地域づくりに教室として貢献すること」という部分に発展性がなく、新しい繋がりを設けることができなかった。教室内の交流にとどまってしまっており、日本語教室から地域への発信が少なかったことが課題であった。

学習者が当協会のイベントの準備やボランティアに参加してくれているその場面の時、「ここにもっと日本人がいたら、地域でもっとこの場面が起これば」と思う瞬間がたくさんあった。

また、日本人に外国人がとても身近になってきた今、地域の中、会社の中では、どんな日本語が話されているのか、また、日本のコミュニティとほとんど接していない在住外国人にとって、日本語学習の必要性など、今後の可児・地域の日本語教室のために調査をする。同時に地域に出向く機会を設ける。そして日本語教室をフレビア内だけにとどまらず、外国人が多く住んでいる地域で開催することや、日本語を”ツール”として地域住民の場の提供などを検討していきたい。

【Ⅲ 防災】

・アンケート結果を見ると、避難訓練への参加経験としてフレビアでの活動を挙げただけようになってきているが、初めて聞いた言葉として「防災」「避難所」が上位に挙げられている。日常生活では使うことが少ない防災用語については、継続的に伝えていく必要があると考える。

・日本語教室以外で、地域の中で防災ワークショップを開催する際、行政や地域、企業にも理解や協力を得ていくことで参加者が増えるのではないかと考える、今後も継続的に働きかけをしていく。

【Ⅳ 子育て】

<第1回>・絵本に入れる文字をアルファベットで書いてしまっている参加者がいた。ひらがなで入れてもらうようにするなどの働きかけがもっとできるとよかった。

・制作する絵本にページが入っていなかったため、作っている途中でページが前後することがあった。

・絵を描くことが苦手なハードルが高いと感じる参加者もいたため、今後は配慮が必要である。

・参加者が多かったため、自己紹介の時間、グループ内で成果物を共有する時間、講師がすべての参加者と交流できる工夫ができるとよかった。

<第2回>・事前申し込みをしていない参加者が多く、席や資料が足りなくなってしまった。参加人数は当日までよめないことが多いため、十分に余裕を持った準備が必要である。

子育ての日本語について、広く募集はしているが、対象者が子育て中の保護者の中でも、小学校入学前の保護者に限定されてしまうことから、小中学生や高校生の保護者にも役に立つ内容で取り組んだ方が、本事業で実施する意義があるのではないかと振り返った。しかし、地域実情から見て、今年度の内容は、保護者にとって必要ではあるため、今後、本事業では取り扱わず、別事業で実施できるように検討する。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称： 外国人児童生徒等日本語指導者研修 】										
目的・目標	多様化している日本語教育人材に求められる資質・能力を養成・研修によって、整理する 教室に関わる人材不足解消につなげる 現職日本語支援員の自己研鑽の場として、認識させる									
内容の詳細	就学前から小中学生、学齢超過の教室に子どもが増加し続けている中、日本語教育に求められる資質・能力は多様化している。主として、外国人児童生徒の日本語教育人材として、既に日本語教育に関わっている指導者に向けて、日本語指導に必要となる知識を身に付けることと、教育能力の向上に導くために実施した。 2時間 8回、3時間 3回、5時間 1回 全12回									
実施期間	令和元年 7月 21日～令和元年 12月 15日				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 8回 = 16時間 1回 3時間 × 3回 = 9時間 1回 5時間 × 1回 = 5時間			
対象者	子どもの日本語教育に関わっている方 学校の教員				参加者		総数 67人 (受講者 53人, 指導者・支援者等 14人)			
カリキュラム案活用	カリキュラム案は活用できなかったが、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版 平成31年3月4日」の日本語教師(児童生徒等)研修における教育内容を参考に、立案し実施した。									
使用した教材・リソース	公立小中学校教科書									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			4						1	48
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名		補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年7月21日(日) 10:00～12:00	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	21	可児市の現状と 子どもの日本語 指導者に求めるもの	・可児市と可児市国際交流協会の取り組み ・日本語指導をする教員(指導員)に求められる資質・能力について ・社会、文化、地域についての理解 ・「捉える力」…子どもの実態の把握と社会的背景の理解		可児市国際交流協会 各務眞弓		近藤利恵
2	令和元年8月11日(日) 10:00～12:00	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	27	外国人児童 生徒等の 現状と施策	・国の受け入れ施策 ・県・市・町のさまざまな取り組み ・外国にツールを持つ子どもの抱える課題 ・日本語教育の指導者に期待すること		愛知淑徳大学 松本一子		近藤利恵
3	令和元年8月25日(日) 10:00～12:00	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	27	特別の教育課程と 日本語指導の コースデザイン	・外国にルーツをもつ子どもたちの学習目標例 ・発達段階によるコース設計 ・日本語の能力に応じた指導プログラム ・特別の教育課程編成・実施報告 ・個別の指導計画		愛知教育大学 川口直巳		近藤利恵
4	令和元年9月1日(日) 10:00～16:00	5	可児市 多文化共生 センター フレビア	32	内容と日本語の 統合学習を デザインする ～教科等の 学習への参加の ためのことばの 力を育むために～	・文化間移動をする子どもたちにとっての日本語学習 ・子どもたちへの日本語教育内容と方法 ・内容と日本語の統合 ①生活場面に日本語学習を結びつける ②教科などの学習と日本語学習を結びつける ・話し合い ①日本語の学習で教科の内容を関連付ける ②学習参加に向けて「事前の活動」を考える		東京学芸大学 齋藤ひろみ		近藤利恵
5	令和元年9月8日(日) 10:00～12:00	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	20	可児市における 日本語初期指導 ～ばら教室KANI～	・ばら教室KANI開設までの経緯 ・外国人住民急増による地域課題 ・全国初の「外国人の子どもの教育に関する実態調査」実施 ・ばら教室は、どんなところか ・ばら教室で大切にしていること		可児市教育委員会 大口裕子		近藤利恵
6	令和元年9月22日(日) 10:00～12:00	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	23	年少者の 日本語教育 見えない子ども達 へのアプローチ ～名古屋YWCA グローバルスクールの 事例より～	・教室立ち上げから9年目の課題 ・世界の教育事情 ・「見えない子ども達」の事例・課題・日本語教室の役割 ・中学夜間学級、高等学校編入学考査、中卒認定・高卒認定試験 ・日本語教育が必要な高校生と公立高校生の中退率と進路状況		名古屋YWCAグローバルスクール 上村桂恵子		近藤利恵
7	令和元年10月6日(日) 10:00～12:00	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	22	在住外国人の キャリア支援の 必要性	・日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査結果について 現状を知る ・キャリア教育とは ・自己表現の「場」作り ・「自分らしい生き方」自分の強み*子どもの強み描くビジョンとは		愛知淑徳大学 小島祥美		近藤利恵

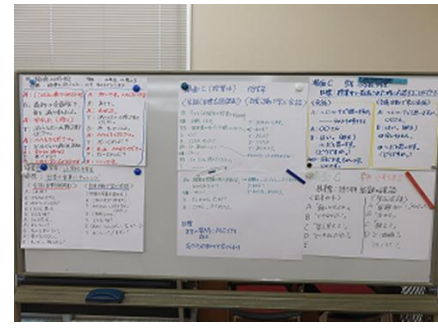
8	令和元年10月13日(日) 13:00～16:00	3	可児市 多文化共生 センター フレビア	15	異文化理解 ～ブラジル・ フィリピンより～	・ポルトガル語での授業体験 ・ブラジル、フィリピンの文化や教育を知る	可児市国際交流協会 吉田よしえ カミリング・マルジ	近藤利恵
9	令和元年10月27日(日) 10:00～12:00	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	18	学校での支援 取り出し・ 入り込み方法 ～多治見市 小中学校より～	・さまざまな日本語教育の用語 ・多治見市外国籍等児童生徒支援のしくみ ・DLAの取り組み ・入り込み時の支援策と実践 ・取り出し授業例 ・教材の紹介	多治見市外国籍等児童生徒 相談員 天野泰世	近藤利恵
10	令和元年11月10日(日) 13:00～16:00	3	可児市 多文化共生 センター フレビア	24	日本語初期の 指導方法 教材ワークショップ	・年少者に対する日本語指導 いつ・何を・どの ように 学習意欲を高める工夫 ・連結期の文型・文法指導法 ・伸長期の読解指導	波多野ファミリスクール 大蔵守久	近藤利恵
11	令和元年11月24日(日) 13:00～16:00	3	可児市 多文化共生 センター フレビア	17	リライト教材の 作成と実践	・リライト教材の種類 ・作成方法 ・リライト実践	西尾市教育委員会 菊池寛子	近藤利恵
12	令和元年12月15日(日) 10:00～12:00	2	可児市 多文化共生 センター フレビア	17	就学前の 子どもの発達と 心理について ～小学校への アプローチを 考える～	・発達を追って ・発音の発達 ・ことばの数 ・子どもの困り感に寄り添う ・可児市の支援の仕組みについて ・就学支援について	可児市子育て支援課 田口由美子	近藤利恵

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第4回 令和元年9月1日: 内容と日本語の統合学習をデザインする】

日本語教育文法の観点から、指導内容と方法の例を見せていただいたり、教科書を見ながら、日本語の文型学習で関連付けられそうな部分を探し、例文を作り、用紙にまとめて発表するというグループワークを行った。
〈アンケートより〉・外国人児童の日本語指導を考えると日本語の習得のみにとらわれてしまいがちですが、日本語教育を通して、学校生活、認知面の発達、自己実現の3つの教育課題に対応して、人としての成長を支えることが根本にあることを基に子どもを育てていくことを学びました。・経験している場面、問題を小さく切り取るということが、何を教えるか考える上で重要だということ。また、教えるタイミング。今後、何を教えるか考える上で、とても重要だと思いました。普段、自分が生徒を教える時に、感じていたことやこうした方がいいのではないかとぼんやり思っていたことが、形として、はっきりみえました。



○取組事例②

【第8回 令和元年10月13日: 異文化理解】

在住外国人にブラジルとフィリピンの文化について話をしてもらった。
ブラジルの講座では、ポルトガル語で算数の授業を行い、受講者がどんな気持ちになるのか、という体験をしてもらった。フィリピンの講座では、学校文化の違いなど紹介し、どちらも、日本では当たり前のことが母国では大きく違っているということを学んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

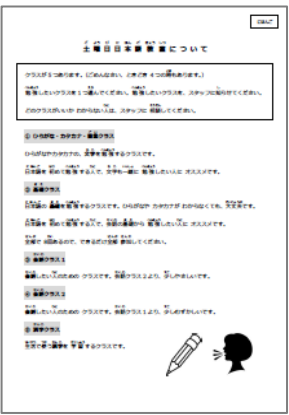
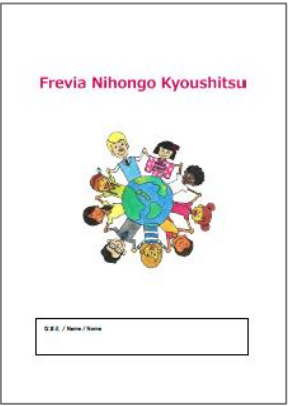
受講者53人という予想を遥かに上回る多数の方が関心を寄せて下さった。
今年度、本事業では、就学前から小中学校、そして過年度生まで、子どもの日本語教育について一通り学べるように「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版 平成31年3月4日」の日本語教師(児童生徒等)研修における教育内容を参考に、プログラムを組んだ。既に、様々なフィールドで活動している方々が参加され、また、ご自身が関係している分野だけ参加されるのではなく、日本語教育に対する一貫性を持って、他の回にも積極的に参加され、回を重ねるごとに、参加者同士、良好な関係性も生まれ、グループワークでより深い取り組みにつながられたのではないかと感じた。
「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版 平成31年3月4日」では60時間推奨されているが、今年度30時間しかできなかったため、今後は、まだ触れていない部分を実施したい。

(3) 今後の改善点について

今年度、外国人児童生徒等に焦点をあてて、研修プログラムを組んだが、当初の目論みは、クラスに外国籍の子どもを持つ担任の先生に、子どもの日本語教育の観点を身に付けてほしいというものだった。
本来、公教育(学校教育現場)が行うべき部分を様々な理由で、民間(NPO団体等)が支援を担っていたりする現実がある。しかし、担任の先生が行うべきものであることを知らないだけであるかもしれない。という思いから、今回の研修は「担任の先生」の視点で日本語教育をどうすればいいのか、子どもにどう寄り添えばいいのかを考え、その学びを、実際、補助的支援を担っている日本語指導者や支援者も聞けば、役割分担が明確になり、支援方法や内容の整理ができる。その一方、「担任の先生」が、日本語指導者や支援者が立場的にどう学んでいるのかを共有できれば、子どもの日本語教育支援が、双方で充実させることができるのではないかと考えたが、「担任の先生」の参加者はゼロだった。
「働き方改革」も一因のようだが、学校教育現場で国際教室の先生方は参加されていたので、研修意義の捉え方のようにも思えるが、地域で課題となっていることを解決へと導ける、または導いていきたいと思いますと丸となって取り組めるような周知方法を今後考えていかなければならない。

日本語教育のための学習教材の作成【 教材の名称 : Frevia Nihongo Kyoushitsu 】

目的・目標	日本語教室で活用できる教材を作成する		
内容の詳細	従来から取り組んでいる日本語教室でのポートフォリオを引き続き実施し、その中のCan-doリストは、教室内で教材としても活用しているため、今年度、土曜日クラスで利用できるCan-doリストを見直しを図りながら作成し、冊子化した。 ＜土曜日日本語教室＞ ひらがなクラス 1.5h × 4回 = 6h 基礎クラス 1.5h × 8回 = 12h Ⅰクラス(初級) 1.5h × 15回 = 22.5h Ⅱクラス(中級以上) 1.5h × 15回 = 22.5h		
実施期間	令和元年 10 月 1日～令和2年3月 19日	作成教材の 想定授業時間	ひらがなクラス 1回 1.5h × 4回 = 6h 基礎クラス 1回 1.5h × 8回 = 12h Ⅰクラス(初級) 1回 1.5h × 15回 = 22.5h Ⅱクラス(中級以上) 1回 1.5h × 15回 = 22.5h ＜ 総合計 63時間 ＞
対象者	日本語学習者 全レベルにおいて、使用可能のものとする	教材の頁数	45ページ
カリキュラム案活用	教室のテーマや内容(3つの評価項目)を決める際「生活上の行為事例」を参考にした。 可児の中でも、学習者の必要性がありそうだと考えられるものを特に取り入れた。		
事業終了後の教材活用	教材は、次年度以降も活用する。Can-doリストの内容(3つの評価項目)について再検討し、必要があれば変更する。学習者の日本語を使用しての生活の記録などを記入するページも今はないため、今年度の教材に全体的に改善・追加していきながら、使用していきたいと考えている。		
成果物のリンク先			



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

在住外国人が、地域社会の一員として生活していけるように支援を構築する。
成人・青年・子ども・保護者など、それぞれにもつ問題や困難さを解決するために、多様化する日本語教育人材の資質・能力を活動分野ごとに養成・研修を実施する。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

日本語教室を実施したことで、学習者同士や指導者など人とのつながりが増えていくことが目に見えて分かった。日本語教室では、日本語学習だけではなく、教室で日本人や同じ国の人と接することで徐々に日本の文化や習慣を知り、それを学べる・誰かに頼れる存在ができることは、学習者が安心・安全に暮らせることにつながるのだと、学習者の様子から分かった。「日本語ができる＝日本で生活できる」ではないので、目標達成により近づくために教室から地域にもっと働きかけていく必要がある。
研修では様々なフィールドで活動している方々が多数参加され、就学前から小中学校、そして過年度生やその保護者まで、子どもの日本語教育について、一通り学び、日本語教育に対する一貫性を持って取り組むことが出来た。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

教室のテーマを決める際「生活上の行為事例」を参考にした。事例集の中には、可児では使用頻度が少なそうな「タクシー」や「クレジットカード」等は、取り扱わず、頻度が高そうなものを参考にした。
取り扱う内容を日本人サポーターだけで選定してしまったため、今後は学習者の希望を聞いて、必要性の高いものから選定した方がいいと感じた。
研修では、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版 平成31年3月4日」の日本語教師(児童生徒等)研修における教育内容を参考に、プログラムを組んだ。今年度30時間しかできなかったため、今後は、まだ触れていない部分を実施できるように考えていく。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

地域の日本人との交流として、主に料理では「ミールの会(可児市食改協OB有志の皆さま)」、防災では、「可児市防災の会」、そして、「可児高校生」と一緒に日本語教室で活動させていただくことができた。ミールの会、可児市防災の会の皆さまとは、過去にも日本語教室の活動に参加して下さり、久しぶりに会う学習者のことを覚えて下さっていて、学習者も嬉しそうだった。また、多文化演劇ユニットMICHUが実施した「防災まちあるき」に参加して下さった防災の会の方が、日本語教室のFacebookグループに入って下さった。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

学習者には、当協会が毎月発行している多言語情報紙(UNIDOS・MAGKAISA)・広報の多言語版で発信した。可児市役所からの紹介、会社の先輩から紹介してもらったという学習者も多かった。そして、日本語教室のFacebookグループを作成し、予定やその日の様子などの写真を貼って更新し、日本語教室に来られなかった人や、まだ参加したことがない学習者にも、教室の様子がわかるように発信した。また、学習者が当協会のイベントの運営委員やブース出展者として参加し、地域の人に対して国の文化や料理を紹介するなど、普段の学習の成果を活かすことができた。
日本語指導者研修は、月2回配信の当協会メルマガ、当協会FaceBook、チラシ、ポスター、市教育委員会や関係各所にチラシ設置及び配布、出席喚起の依頼をして、幅広く周知させた。

(6) 改善点、今後の課題について

現在、可児市多文化共生センターフレビアを拠点にして、日本語教室を運営しており、学習者が当協会のイベントの運営や日本語教室以外での活動にも参加してくれるようになり、学習者自身に「地域貢献したい」という気持ちが芽生えていることを実感できた。しかし、可児市には、フレビア周辺よりも車で約15分ぐらい離れたところに、外国人集住地区があり、その集住地区に住んでいる日本人と関係性を築いた方が、より外国人は暮らしやすいのではないかと感じた。フレビアは、まだまだ日本人に知られていない課題があり、私たちの活動にもっと関心をもってもらうには、まず、自分の近くに住んでいる外国人を支援することから始め、徐々にフレビアの活動も周知され支援に広がりをもてるようにしていきたい。そのためには、情報発信の見直しや新しい場の提供、それらのつなぎ方を工夫する必要がある。 また、今後「日本語の習得」が「生活の中でどのように生かされているのか」という分析を行い、従来から取り組んでいるポートフォリオについても検証を行っていく。
研修については、日本語指導者の視点を学校教育の中に向けたが、結局、学校教育の中にいない日本語指導者や支援者が、自身の支援内容の方法を見直すきっかけにつながったり、さらには、自身が担う役割を再確認することにつながった。今後も様々な立場の視点から研修を行い、それを違う立場間で共有できれば、よりいい支援になると感じている。
教材作成については、従来から取り組んでいた内容を冊子化することにより、慎重に見直したり、授業の進め方を整理することができた。Can-doリストの項目をどのような観点で掲げたらよいのか、原稿会議で熟考することができ、出来上がった教材で、学習者が以前と比べてどのような反応をするのか、楽しみである。

(7) その他参考資料

- チラシ:子育ての日本語 第1回【親子で絵本をつくろう】日本語・ポルトガル語・英語
- チラシ:子育ての日本語 第2回【入学準備ガイダンス】日本語・ポルトガル語・英語
- チラシ:外国人児童生徒等日本語指導者研修
- 作成教材:Frevia Nihongo Kyoushitsu